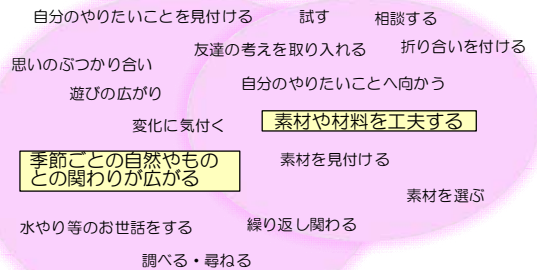


事例2:「温泉を作ろう！」 4・5歳児混合(6月)

幼児期の終わりまでに育ててほしい姿
(10の姿)との関連

- ③協同性
- ⑥思考力の芽生え
- ⑩豊かな感性と表現

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



探究することを楽しむ

これまでの姿

・5月から色水遊びから泡・泥など、水を使った遊びが続き、6月には、砂場でも道具を使ってそれぞれに遊ぶ中、5歳児のA児が「温泉作りたいねー。」と友達に声を掛けると、「やったー！」と近隣施設の温泉を思い浮かべたアイデアを喜び、一緒に作るようになった。

◎ねらい◎内容

◎水や砂の感触を楽しみ、友達と思いや考えを出し合い、試したり工夫したりしながら一緒に関わって遊ぶことを楽しむ。

- やりたい遊びを伝えたり友達の考えを受け入れたりして、一緒に遊ぶ。
- 樋やペットボトルなど道具を使い、イメージした温泉を試行錯誤して作る。
- 友達と一緒に作り上げた温泉に入る満足感を味わう。



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

⑥⑩5歳児のA児は、樋を使って水を流すことを試しているうちに、「ここをちゃんとつなげないと水が流れない」と、水が流れやすいつなぎ方に気付いたようだった。

そこで、⑥A児は、途中で倒れないようにおもちゃやペットボトルで樋の置き方を工夫しながら、4歳児のB児に「水を流してて」と、水が流れても樋が倒れないか実際に確かめられるように、声を掛けていた。一方、その樋の周りでは、4・5歳児が「温泉」のイメージでどんどん穴を掘っていき、様々な大きさの穴がたくさんできていた。

すると、5歳児の③⑩B児が、「この小さい穴をつなげたらいいね」と、穴をつなげて大きくしていくアイデアを提案した。周りで穴を掘っていた幼児も、そのアイデアを受け入れ、スコップで溝を掘って穴をつなげていくと、一つの大きい穴へとみるみる変化していった。

★環境の構成

○保育者の関わり

○砂場での遊びを繰り返し楽しみながら、砂や水の感触を楽しみ、さらに遊びが広がるよう、保育者も一緒に遊びながら見守る。

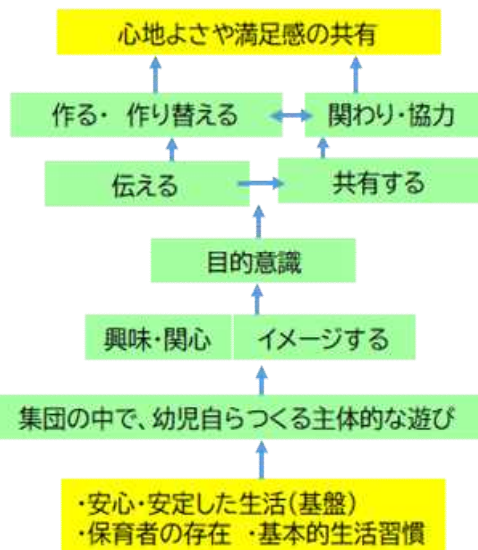
★温泉のイメージが広がるよう、目に入る場所にホースやスコップ、雨樋などを置き、友達同士相談して、繰り返し遊んだり工夫したりして遊ぶことができるようしておく。



○保育者も一緒に遊びながら、穴を掘ったりつないだりして、温泉を作ることやできたことを喜び、充実感を味わったり、仲間意識を高めたりできるように、言葉で価値付けていく。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「温泉づくり」遊びのプロセス



⑩豊かな感性と表現

つなげてできた温泉に足を入れて、深さを確かめたり心地よさを味わったり、友達を誘い心地よさに共感しようとしている。



⑨協同性

それぞれの小さい穴をつなぎ合わせると、大きな穴にすることができるといふことに気付いたり、その様子を見た幼児たちが「自分もやってみたい」「みんなで一緒に大きな温泉にしたい」という思いをもったりする。



⑥思考力の芽生え

樋が外れたり倒れたりしたことで、どうすれば樋を支えられるか、高さや斜度を考えて試し、おもちゃやペットボトルなどを置く工夫に行きついている。



⑧協同性

みんなでつなげた大きな穴に水を入れ、一つの温泉ができたことで、友達同士一緒に作ったという満足感や達成感を味わっている。

①健康な心と体

温泉を作るという目的に向かって、裸足になって、カー杯スコップで砂を救うなど、思い切り身体を使って完成させようとしている。

小学校教員の気付き

◆水や砂など五感を使った遊びで、表現したり受け入れたりして思いを実現している。主体的な遊びだからこそ関わりや気付きの力が育まれることが分かった。指導を工夫したい。

◆水や砂などで存分に遊べるよう環境構成や援助を続けることで、大人しい5歳児に温泉づくりへの願いが生まれ、その願いを周囲に働きかけ一緒に実現することで満足感等も味わうことができたのではないかと。

保護者への発信ポイント

◆子供が何気なく始めた遊びの中には、一人一人の実現させたい願いがあります。それに関心をもったり認めてもらえたりすると、自信に繋がります。日々の積み重ねが自尊心の高まりに繋がっていくことを伝えましょう。

◆家庭では味わうことが難しい、砂・土・水を使った遊びを、園ではたくさん経験しています。その中で五感や感性が豊かになったり、ものの性質などの理解に繋がったりするなど、様々な力が育まれていることを、写真などを使って具体的に伝えていきましょう。